

二 新 風 日

山口 左 氏 郎 氏

木 居

牛 乳 粉 之 罐

會 議 負 原 子

部 親 子 一 生

五 年 之 延 子

身 大 醫 年 子



三

去年より通

身大如年

今更

六長

(自)

具

あ

り

石

生

村

可

し



17

大  
字  
式  
讀

種

山  
石  
如  
云

福壽

何子平

神眉今又

此中乃古印也

石拉子

五



上納后卿七五三引

山口七郎殿

親房

男奉参末流遠王事也末流辰  
有邦勢小隙也日方為地  
之忠有極めあふ不若部日割  
の事少くあふり一多敷なり  
四五ありと神戸へ日七々矢花へ日九  
之豊田へ廿廿二の中九（と案）之七  
四寸小敷下存高ハ愛年、之雪  
、領されぬめ子おま世方、其、乃、降  
宮、海、小、以、弟、子、て、終、子、神、戸、へ、行  
き、り、や、さ、り、し、が、承、り、し、ん、が、以、程  
子、鈴、本、氏、と、出、驛、入、あ、あ、り、り  
由、務、て、子、分、い、生、い、各、年、族、部







中川也之虎の精玉に下か  
 お叶 中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か

一〇九

細川

山田七郎

雲六

二

中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か  
 中川也之虎の精玉に下か

南無自村宗信寺也

細川



左會集のしるし  
雲々のあふ月夜に  
金一して石部金廿四  
也と云ふに返すお眉  
は湯行ありと云ふ可成  
有者、然るに豊田  
内傳一より言也と云  
相傳一あり、外に者も  
知能居あり、若くは金  
より、半數り要するも  
新仕ある、失くさう私  
中屋出屋あり仕あり半  
貴兒は損を認り豊田  
に可成あり相傳有  
と云ふと云ふ、  
いふ文

くらサミ

山々七市被

山田



陳陳無日

(1) 飛  
田

大壽寺

147

毛本  
月二  
澤田先生  
毛  
出  
層

無  
子  
病  
記  
向  
所  
由  
是

會員通知

其體期反已不都金

有  
氣  
不  
月  
日  
骨  
謝  
金

等々  
此  
却  
支  
支  
支

七  
お  
の  
り  
と  
い  
ふ  
老  
兄  
の  
事  
と

同改<sup>上</sup>此<sup>レ</sup>便<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>至<sup>レ</sup>旦<sup>レ</sup>外

新國却折病之骨

五、家、居、三、指、四、  
一、光、日、一







上粉屋書

南重日書

山口左中棟

陸侯選補

重八國五十八年

古村

西砂

以爲系其目之

世之

越一自治瑞

山小安一

重六

以爲

他人

多飲



以爲己之志也古者志士  
於他人之過求其可代價

孝欲征於便乎急欲

按附王公之衆法也

以爲然也

乃其人也

十二月廿

南唐書

張侯

十二月廿

山左七中君

殘

十二月廿







合計 七段 三系 三系 三系 三系

日全段 三系 六段 六系 六系

全目部

全五系 台五系

三系 六段 六系 六系

引

段 全四段 六系 六系 六系

段 六系 六系 六系 六系

本 六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

六系 六系 六系 六系

再抄

南金目村

細川



國開會設ノ儀ニ付建言

主上ノ御誓文並ニ難有御明詔ノ趣キモ有之立  
憲政體則チ國會開設ノ精神ニシテ取リモ直サ  
ス上ヨリ御沙汰相成候御儀ニテ今日迄ノ所  
ハ唯其時節未タ到來不致漸次ニ其御運ハ可相  
成トノ御事ニ御座候處本年ニ至リテハ世上ノ  
人氣モ彌以テ此開設ノ熱心仕候趣ニテ既ニ諸  
方ヨリ出願ノ向モ不擲此事ニ就テハ如何ナル  
邊鄙ノ田舎ニ至ルマテモ一句ノ不ノ字チ申者  
無之ニ全ク人心ノ之ニ熱シテ時節到來致シ候  
儀ト奉存候就テハ私共二万三千五百五拾五名  
ノ人民モ矢張天下ノ衆論ニ同シシ開設ノ儀飽  
迄奉希望候

都テ世中ノ事ハ要用ナシシテ起ルヘキニ非  
ス又起ス可キコト非ス今國會ノ事モ差シタル要  
用無之候ヘハ態々之ヲ起シテ上コト御手數相掛  
又私共モ徒ニ心配仕候コトモ不及儀ニ御座候得  
共去ル嘉永年中ヨリ外國人渡來引續キ御一新  
益以テ外國ノ交際繁多相成候ニ付テハ國權ノ  
事實貿易ノ事何レモ容易ナラサル次第ニテ舊幕  
府時代ノ政事ニテハ萬々此日本國ヲ維持スル  
ニ不足トノヲハ三歳ノ童子モ心得候儀ニテ乍  
恐

主上ノ御誓文并ニ御明詔モ此邊御明察被爲在  
候テノ御事ト奉存候

抑方今世界萬國ノ交際ハ德義人情ヲ以テ接ス  
可キモノコト非ス又約束法律ヲ以テ制ス可キ者  
コト非ス唯其恃ム所ハ兵力コトシテ求ムル所ハ利  
益ノミ昨日迄ハ懇親ノ條約ヲ結ンテ萬代不易  
ノ同盟國ト稱スル者コトモ今日其一方ニ疊ア  
レハ則チ之ヲ伐テ之ヲ取リ天地ノ間ニ之ヲ妨  
シル者アルヲナシ斯ル危キ萬國交際ノ其中コ  
我日本モ獨立シテ國威ヲ世界ニ暉サントスル

右ノ如ク方今護國ノ用意行届カサルハ國ニ人物ナキニアラス又財ナキニアラス唯其人物ヲ政府ニ集ムルヲ能ハス其財ヲ國庫ニ積ムヲ能ハサルノ罪ノミ現今ノ歳入五千餘万圓ニテハ僅ニ從前ノ政府ヲ維持スルニ足ル可キ或ハ足ラサルヲナラン近日紙幣ノ下落一圓ニ付五十錢ノ差ヲ生シ政府ノ歳入五千万圓ナルモ其實ハ三千餘万圓ニ過キス實ニ焦眉ノ急難ト可中政府ハ何等ノ方便ヲ以テ此財政ノ衰頽ヲ恢復セント欲スルカ既往ハ論セス今日コ在テハ大ニ國債ヲ募テ急テ救フノ外策略ナカル可シ然ルニ此國債ヲ募ルニ當テ政府ハ果シテ人民ヲシテ悅テ此募ニ應ゼシムル程ノ人心ヲ得タル歟乍恐未タ此場合コハ至ラザルヲト奉存候今日ノ有様コテハ日本ハ政府ノ日本ニシテ未タ人民ノ日本ニアラス故コ日本ノ艱難モ唯政府ノ艱難ニシテ人民ノ艱難ニアラス人民若シ國ノ艱難ヲ身ニ引受ケ國難ヲ身難トスルノ日ニ至レハ何ソ國財ノ不足ヲ憂ルニ足ラン國債ヲ募テ紙幣ヲ消却スルカ如キハ易中ノ易ト可中モノナリ其人民ヲシテ國難ニ當ラシムルノ方便ハ他ナシ唯之ニ參政ノ權ヲ附與シテ國會

チ開設スルノ一策  
ニ接シナカラ倚日  
至リ給フ哉乍恐私  
サルヲコ御座候  
或ハ此紙幣消却ノ  
國價ノ寡ル可カラ  
決シ竊コ外國ノル  
カ如キアゾハ天下  
ノ論議ハ姑ク閑ホ  
スシモ怠懈ナルコ  
ニ非ス紙幣消却ノ  
民力ノ盛衰コ毫モ  
リ此手是レ捨テ外  
一點ニ就テモ最下  
財チキニ非ス財ホ  
ニ國財チ集ムル能  
サルカ故ナリ此民  
可ナラン唯國會開  
右紙幣消却ノ儀ハ  
迄ノ事ユテ私共ハ  
シタレハトテ事毎  
事ハ唯焦眉ノ急ノ  
ノ改進ニ着手シ陸  
嚴コシ内ニハ大ニ  
便汽船ノ線路ヲ擴  
賣貿易ノ法ヲ改善  
力ヲ濫用セシメテ  
事ナカラシメ期ナ  
テ此外ニハ有之門  
府之ヲ欲シ民心亦  
迫止ムヲ得サル事  
シトスルモ尙早ト  
設ス可キ也斯ノ如  
主上ノ御誓文并御  
ニ以テ難有仕合ニ  
相成候様此段奉レ  
明治十三年六月



儀ニ無之第一ニハ兵備ヲ  
儀ト奉存候然ルコ今我國  
軍モ實用ニ適スル軍艦ハ  
備ヘ十分ナリト難申又泰  
國勢ノ所在ヲ示シテ他ノ  
時々海外ニ我軍艦ヲ遣リ  
盛大ニシテ世界中海水ノ  
ノ旗ヲ飄ス様不致テ不叶  
於テ疑ヲ容レサル所ナレ  
ノ派遣モ僅コ一年一艘コ  
キモ香港ヲ過キテ一步ヲ  
以テ微々々々タルコ有  
威スルニ足ラサルノミナ  
何可有之哉思テ此ニ至レ  
次第ニ御座候  
用意行届カサルハ國ニハ  
ナキニアラサ唯其人物ヲ  
ス其財ヲ國庫ニ積ムコ能  
ノ歳入五千餘万圓コテハ  
日紙幣ノ下落一圓ニ付五  
ノ歳入五千萬圓ナルモ其  
キス實ニ焦眉ノ急難ト可  
ヲ以テ此財政ノ衰頽ヲ俟  
往ハ論セヌ今日コ在テハ  
救フノ外策略ナカル可シ  
コ當テ政府ハ果シテ人民  
セシムル程ノ人心ヲ得タ  
コハ至ラザルコト奉存候  
本ハ政府ノ日本ニシテ未  
ス故コ日本ノ艱難モ唯政  
ノ艱難ニアラス人民若シ  
少國難ヲ身難トスルノ日  
不足ヲ憂ルニ足ラン國債  
ルカ如キハ易中ノ易ト可  
シテ國難ニ當ラシムルノ  
參政ノ權ヲ附與シテ國會

ヲ開設スルノ一策アルノミ政府ハ此焦眉ノ急  
ニ接シナカラ尙且何等ヲ顧慮シテ荏苒今日ニ  
至リ給フ哉乍恐私其ノ愚見ニ於テ解ス可カラ  
サルコ御座候  
或ハ此紙幣消却ノ一條ニ付テモ政府ハ竊コ内  
國債ノ募ル可カラサルヲ知リ竊ニ策ヲ内閣ニ  
決シ竊ニ外國ノ人コ談シテ竊ニ外國債ヲ募ル  
カ如キアラハ天下後世之ヲ何トカ言ハソ後世  
ノ論議ハ姑ク聞キ現コ今我國中ニ於テ人民必  
スシモ怠懈ナルニ非ス實力必シモ疲弊シタル  
コ非ス紙幣消却ノ爲メコ若干ノ内債ヲ募ルモ  
民力ノ盛衰ニ毫モ影響ヲ及スヘキニ非サルナ  
リ此ヲ是レ捨テ外國ヲ仰クカ如キハ經濟論ノ  
一點ニ就テモ最下ノ拙策ナラスヤ畢竟内國ニ  
財ヲキニ非ス財ヲ集ムルノ方便ナキノミ政府  
ニ國財ヲ集ムル能ハサルハ民心ヲ收ムル能ハ  
サルカ故ナリ此民心ヲ收ムルノ法如何ニシテ  
可ナラン唯國會開設ノ一策アルノミト奉存候  
右紙幣消却ノ儀ハ唯財政困難ノ一例コ舉タル  
迄ノ事コテ私共ノ所見ハ固ヨリ此紙幣ヲ消却  
シタレハトテ事成ルトスルコアラサ紙幣ノ一  
事ハ唯焦眉ノ急ノミ此急ヲ救ヒ終リテ益國事  
ノ改進ニ着手シ陸海軍ヲ皇張シ海岸ノ防禦ヲ  
嚴ニシ内ニハ大ニ鎮道ヲ築造シ外ニハ盛ニ郵  
便汽船ノ線路ヲ擴張シ製作工業ノ道ヲ勸メテ商  
賣貿易ノ法ヲ改革シ外國ノ人ヲシテ一毫ノ權  
力ヲ濫用セシメス一錢ノ利益ヲ押領セシムル  
事ナカラシナ期スルノミ乍恐政府ノ御趣意ト  
テ此外ニハ有之間敷則官民一致ノ接點ナリ政  
府之ヲ欲シ民心亦熾シ之ニ加フルニ時勢ノ切  
迫止ムヲ得サル事情アリ國會開設今日己ニ開  
設ス可キ也斯ノ如クシテ始メテ  
主上ノ御誓文并御明詔モ其實ヲ顯ハシ可申誠  
ニ以テ難有仕合ニ奉存候何卒願望ノ趣御採用  
相成候様此段奉申上申候也  
明治十三年六月七日

高坐郡下久津村三拾三番地

平民 山本 作左衛門  
三十一年九月

神奈川縣相模國足柄上下郡陶綾郡大住郡  
愛甲郡高座郡鎌倉郡三浦郡津久井郡五百  
五拾九町村二万三千五百五十五名總代  
足柄下郡小田原縣十字町四丁目百二番地  
士族 松本 福昌  
廿壹年十月月

全 郡曾我谷津村廿九番地  
平民 長谷川 豐吉  
廿六年七月

陶綾郡大磯驛百八十四番地  
平民 中川 良知  
三十九年五月

大住郡小嶺村十九番地  
平民 福井 直吉  
三十三年

全 郡馬入村七十四番地  
平民 杉山 泰助  
三十八年五月

愛甲郡戸室村三十八番地  
平民 霜島 久圓  
四十三年十一月

愛甲郡下川入村三十番地  
平民 小宮 保次郎  
四十二年

高座郡中新田村四十番地  
平民 今福 元顯  
三十六年十月

全 郡相原村六十一番地  
平民 神藤 利八  
三十四年二月

三浦郡三崎町  
平民 鹽瀬 與太郎  
三十六年五月

津久井郡太井村  
平民 梶野 敬三

足柄上郡谷ヶ村  
平民 武尾 彌十郎

同郡龜井島村  
平民 下山 万之助

元老院議長大木喬 任殿



ほへちりあか  
えのき

カキム  
百七十五  
ハ十四  
五  
ム  
ウ三十四  
ハ五

山田まふ



一 五五  
 一 五五  
 一 五五  
 一 五五  
 一 五五

五五五五

五五五五



一 寺 記

才 良 志

福 寺 志

城 地 市 志

從 寓 志

一 寺 志

在 德 志 寺 志

四 寺 志

三 寺 志

山 志



記

一  
道字爲據



此部より出たもの

細く長いもの

カ

細く長いもの

カ

右の部より出たもの

カ

カ







り所金

下り

一全壹四

室  
宇田君

二全五拾五

和田君

三全五拾五

宇屋君

四全五拾五

山泉君

五全四拾五

杉山君

六全五拾五

近藤君

七全三拾五

小林君

八全三拾五

弓君

九全三拾五

細野

一全五拾五

三原

△全五拾五  
増下り

二全五拾五

山田君

三全五拾五

宇屋

四全五拾五

和田君

五全四拾五

杉山君

六全三拾五

山田君

七全三拾五

弓君

八全三拾五

三原

△全五拾五



彌子金七箇拾束

内金三箇三拾束

ナラリしおほやうや

神金の箇拾束

ナラリしおほやうや

外に不持多し部

ナラリしおほやうや

ナラリしおほやうや

金三拾束 細整見

右に百

ナラリしおほやうや 三

ナラリしおほやうや



記

一 入言田移入

河田左

一 入言田移入

河田左

一 入言田移入

河田左

一 入言田移入

河田左

一 入言田移入

河田左

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入

一 入言田移入



三月

今日四月十五日

今日四月十五日

今日四月十五日

今日

今日四月十五日

横濱五五

村方利

文法部



山以在寺  
 林  
 青  
 月  
 月  
 月

于坡人  
河村古  
高田寺  
子為安  
板井院  
建井松  
仙

于厚竹  
山田  
丁厚  
丁厚  
丁厚  
丁厚  
丁厚

田

任子久  
 牙子  
 切末  
 長城  
 池部方

[illegible]



二海  
守  
打

長  
福井  
磯部  
今井

[illegible]



記

金控或易也

右記下

乙卯年



山子



記

丁亥年  
八月

十四年  
八月

右正、長所也

九月

謹啓



山口右七郎様



りふるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる

るるるるるる



十月五日

一、金、五、拾、元

六、金、五、拾、元

一、金、五、拾、元

六、金、五、拾、元

一、金、四、拾、元

六、金、五、拾、元

一、金、三、拾、元

六、金、五、拾、元



張氏國姓  
丁卯





終

一 卷之三 月之四 乙未

仁海子 今月 乙未 乙未 乙未  
一月 乙未 乙未 乙未

古 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未



張

2000000

1000000

1000000

1000000

1000000

1000000

記

二六五五

百六十年四月六日

子

子

學



小字

福井直吉



Handwritten red text, likely a library or collection stamp, oriented vertically on the right edge of the paper.

出之と古く  
多し  
多し  
多し  
多し

性  
名  
宣  
印  
文  
庫  
二  
三



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten text in red ink, possibly a signature or name.



雨降山石  
 孫氏何ふ  
 中つぬ  
 乃云り

二木  
 二木  
 二木  
 二木

米國  
 政治  
 論



証

金太郎也

右の如く由緒の多き心

也  
山本宗孝

山  
口大七郎



金番	子號	入請	書取	狀宿	請所	証遞	符在
九	金	局	日	鈴木	名氏	普通	配達料
金	証印		分	大郎	名氏	送料區別	拾錢
金			上	台	名氏	普通	料
			下	七郎	名氏	送料區別	料
			住	郎	名氏	送料區別	料
			部	郎	名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料
					名氏	送料區別	料



子

金三十四

米物代

内金

石酒了  
后中

未七月十二日

山田市  
印

伊能島諸奈層

心世浪白心



証

金指氣也

右符乃氣也

元二八月廿三

如平秀子印



山々々々々



一 移川  
[ ] 沿道より  
新

四十二

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口左七郎

三十八

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口伊三郎

十九

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口書博

漢員

[ ] 宇局左事方

[ ] [ ] 宇局左事方 土十

[ ] 宇局左事方

[ ] [ ] 飯保房名 十七八

[ ] 大伊左事方

[ ] 大伊左事方

[ ] 江

[ ] 大伊左事方

[ ] 山口伊三郎

[ ] 竹屋

[ ] 竹屋

但此より初ハ  
十三時付十三人ト見ス

三十三

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口伊三郎

三十二

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口伊三郎

三十一

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] 山口伊三郎

[ ] 山口伊三郎

[ ] 山口伊三郎

[ ] 山口伊三郎

[ ] 山口伊三郎

[ ] 山口伊三郎



十<sup>ナ</sup>五<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

十<sup>ナ</sup>分

七<sup>ナ</sup>四<sup>ナ</sup>分

七<sup>ナ</sup>四<sup>ナ</sup>分

四<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分

八<sup>ナ</sup>分



十九

九

自注

七

五十一 六十一 四十一 五十一

自  
心  
醒  
一  
刀

肉

五  
以  
通  
理  
妙

朽  
象  
一  
尸

柳原子

白中理

定印

卷之七

三十一

五  
五  
十  
四

三千九百

丙	丙	丙
金	金	金
七月	九月	三十日

宋書

五

10

七

山田



セミ田カウチ 白田一戸

セミ田カウチ 五に海堤カウチ

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸

セミ田カウチ 相方一戸



凡金七拾四

凡金三拾一四

内 拾四

神戶

五 四

書籍

五 四

九 孫

書助

三 拾四

五 孫

山口

五

四 孫

鴨川

二 四

一 孫

麻生

五 四

孫

山田

後妻 孫 孫 孫

内

金五拾五 孫 孫 孫

内

凡金五 孫 孫 孫

金

五 孫 孫

七 孫 孫



九

九

一

二

二

三

三

四

四

五

五

六

七

八

山田

伊藤

以世



Handwritten text on the right edge of the page, partially cut off.

池

金五系五九六

第...一

已...一

...  
...  
...

...

海子...中

...



半考元記

一 金三内

岩代

二 八

三十七

一 八

岩代

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

二 八

一 八

ッ

一 金三内

岩代

右之通

未 七 八 下 五 七 八

大福寺

山田 伊之次郎



別果如斯之變先強壯  
少壯如命形支弱多力  
可若者多何若此持中  
神主者多日又遇利  
付者集金有張出者趣  
歸院之目知化水財飯  
四富者多海有流歸一得妻  
何子此推聚者知上或  
因狀一筆退刻斬子記  
一我中為言何章之理原  
可若者多也

元文章何之清書政名若若



記

一金五兩

在口

六十五

永末

滿字

山



新撰古今  
一全

尔来吾出洛輒言至來此悲  
有折臂失脚最苦一書以  
際め亦依頼や至る子休休也  
不似幸亦ある文付と至下  
為少はさし出ぬとある回中  
かも前書より致し四書に  
計纂まで廿五卷の中より  
衆を引去りしと雖も殘  
者下付とすなり孝思  
又此が後述子しある  
信乃知の

九月一日

新撰

山口雅之

坐六

二

布日十日ま出たて臨時  
際 吾部の人衆多し  
し者多しと出た病  
病ありて出た病あり  
はるは以て出た病あり

再

下子未出軍中  
聲

五



$$\begin{array}{r} 95 \\ - 9.10 \\ \hline 25.90 \end{array}$$
[illegible]



元小左衛門尉家時年 子と也

17日十三年

徳川 藩

岩佐七郎 君

之

明日ハキ前ノ日ハ主印乃一高共

再抄了





証

一金四拾圓也

古久九月傳經

前傍之屬分

也慥握掌

也

明治十五年

八月四日

澤田彌

右

山口左七郎殿



領收證

一金百圓也

右夫明治五年七八兩月分給  
料トシテ正領收候也

明治五年七月八日

澤田 翔

小野懷之殿



拙生、夕々、礫

講業之時、写を

方、之、此、二、所、に、

出、在、仕、在、所、に、

昨宵、此、話、を、了、す

至、少、結、算、書、を

勘、字、部、合、左、に

如、く、取、計、を

手、取、に

五月廿九日

一、名、に、於、五、刻、山、田、名、を、

六月廿九日、

一、名、に、於、五、刻、

六月廿九日、前、借、上

一、名、に、於、五、刻、



六月廿九日、前借上

して上見より取立上

分、何卒沙計

とらへて戻す也

ノ事、三拾月也

古前借、お成心筆を

陰迄、本年七月より

十二月迄、月々五円

引去り、額、以て

その少額、取計

多額に

一様、原金云々、と係に

概して一書、お授

し、常々、金、お引

き、お金、お授、お

つ、お金、お授、お

具、お金、お授、お

お金、お授、お

一、お金、お授、お

一、お金、お授、お

一、お金、お授、お



一 榎原 貞之と云ふは

拙生より一書ありて

し常々見たり其月

に少くも三杯ありて

フーの心算に兄より

呉越の事申されども

心算の事なり

一 右兄より時々借用

ふ

一 右四回

中 右様へ参りし

一 右二回

中 曾て参りし

一 右一回

中 申されども

一 右三回

口上

右 右様へ

中 右様へ参りし

拙生 都々

中 右様へ参りし

取 源

中 右様へ参りし

取 源

但し五箇期に及ん

九月十日迄トス



$\frac{1}{2} \text{ sec} : 20 \text{ s}$

[illegible]



可

1

寄附金  
記入  
証書  
書

郵便爲替願書

一金貳拾五圓

右ノ金高郵便爲替之御規則ヲ以テ左ニ相記シ  
候姓名之受取人、御渡相成度此段相願候也

明治十五年七月十三日

金高渡 スベキ ノ地名	差出 人ノ 宿所	相州大任郡上柏屋村 山左之郎
大任郡	姓名 受取 人ノ 宿所	伊勢原 東多郡 八幡町 秋山方 居
伊勢原	姓名 受取 人ノ 宿所	細川

振出  
地名

一〇五七



得るはあ類と

依りてふかき道 出京仕な

あふふふふ 景要月 西 別 〇

あふふふふ 景要月 西 別 〇

三四 四月 午 七 日

あふふふふ 景要月 西 別 〇

あふふふふ 景要月 西 別 〇

山と左と 標 (1) 田



Handwritten text on a pink slip of paper at the top right corner.

天

一重吉田

Handwritten text in cursive script, consisting of several vertical columns of characters.

Handwritten text on the left side of the main body.

Handwritten text at the bottom left, accompanied by a red seal.

山田



5

記

一全弘象也



古々空武 但内至象十

之月流るる ちくちく

右へんふふたれ也

可くも 諸学念日

集了



山口猿

山



証



一金五兩

吉洲茶科片七片五粒五

更納仕事江紀中上中

《神奈川縣下相模國大住郡伊勢原片町

二月元日

宮之前

玉川弥吉郎



御客様

店中



元

丁未年  
金古松人 為

一  
金古松人 為

一  
金古松人 為

丁未年  
金古松人 為

丁未年  
金古松人 為

山口村



号

記

有王象

古くはまはる

十二月十日

新



日



東京經濟雜誌

三冊

佛敎台本

一冊

每日新聞

拾一冊

十一月廿三日

桂次郎借



Handwritten text on a separate piece of paper at the top right, partially overlapping the main fragment.

漢治理經

漢治經民約

松垣政法論

乃保甲中法也

乃保甲中法也

毒部

毒部

毒部



芳月

刑法

九冊

長江  
三河  
武蔵  
甲斐  
山梨  
長野  
群馬  
栃木  
茨城  
千葉  
埼玉  
東京  
神奈川  
横浜  
大阪  
京都  
兵庫  
奈良  
和歌山  
徳島  
香川  
高松  
愛媛  
高知  
福岡  
佐賀  
大分  
熊本  
鹿儿岛  
那覇

長江

三河

武蔵

山梨



Handwritten text on a torn piece of paper, including characters like 花 (flower) and 所 (place).

一書  
事  
實  
之  
部

之  
部

多  
因  
以  
之



神上村下村  
山 左 十 十 十  
標

1844/1845





丁未年

大坂 安田佐助 北濱 幸自 濱 幸自 濱 幸自

欽本 書本 印

Handwritten text on a separate piece of paper, partially visible on the right edge.



少修志林 第一十二卷

青一 市川

交調雜法 一五

隨古起觀 一

早討海部起式

四以客錄 一

三月 以名年

少部神代 一五

左法林

月名 一



Handwritten text on a separate piece of paper, partially visible at the top right.

一 柳子 万言 引  
一 勇同 宝法

○

宝法 宝法 宝法  
中 宝法 宝法



張

三月十日  
一並糸内去  
代金四珠云

太一通

三月十日

山口

新  
小  
便



三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

# 諸取征

水

一 友有之佈

三冊

一 地籍籍案規分

三冊

一 外國人進出規程圖及地地便

三冊

可調書

一 回藏立外親書

三冊

一 地籍籍案規分

三冊

一 地籍籍案規分

三冊

一 地籍籍案規分

三冊

石山、孝、阿、也

石井

黒川

十二年三月十四日

山、石、孝、阿、也



海内

下

一 龍 弟

一 龍 刀

一 龍 甲

一 龍 也

九



一 經

元北柳長家大屋

結底方回 之通

之入和之之之

今井深以即之

之之指多之

之之

一 中老方之之之仲井

世國

之之

一 之之之之之之

一 之之之之之之

之之之之之之

之之之之之之

一 之之之之之之

之之之之之之

一 之之之之之之



一、水、中、長、石、新、舟

一、水、中、長、石、新、舟

一、水、中、長、石、新、舟

一、水、中、長、石、新、舟

一、水、中、長、石、新、舟

一、水、中、長、石、新、舟





引継ぎ

一 統計表より  
四 統計表より  
二 冊  
三 袋

一 金庫表より

四 統計表より

田中村

田中村  
田中村  
田中村

田中村  
田中村  
田中村

田中村  
田中村  
田中村

田中村



一 万有地 墨性

无册

但月如影一郭

一 古之世之性

无册

一 福恒道生回溪所居之册

一 恽公何酒香款

无册

一 旧信系系托托寄人除地

无册

无册

一 各书之各书

无册

无册



一 万有地墨性

无册

但即如卷一第

一 古有地之性

无册

一 福恒道生回溪路得之册

一 恻么仍酒香款

无册

一 旧信系系托托安人除地

才字字隔乃酒香

厚册

一 各样之各样

无册

一 方和如信系系托托安人除地

厚册

右书引继正之清取

书也

明流千春

三月廿四

中内光定





窓

之係乳

之

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

多目

